

## E. 同和問題

| 題名   | 対象               | 内容   |
|--|------------------|--|
| E-1<br>にんげんの詩<br>(アニメ)<br>26分 (1988年)                | 中学校<br>高学年<br>以上 | この作品は、ふとしたことから、部落差別の問題に直面することになった、18歳の少女・ミツコが、その差別の根源を追い求めて、時空を越えた、幻想的な旅をつづけます。現在も、わたしたちの周辺にまかり通っている差別が、いかにいわれのないものであるかを明らかにし、明るい未来を築くために、差別を解消していくことが、どんなに大切かを浮かびあがらせようとするものです。 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">教</span> |
| E-2<br>同和問題の理解と認識－歴史をとおして考える－<br>29分 (1981年)         | 中学生<br>以上        | 部落差別の起こりについて、歴史をとおして正しい理解と認識を図るとともに、今日、伝えられる偏見を取り去り、同和対策事業の意義や啓発活動の必要性をあらためて考えようとするものです。   |
| E-3<br>未来からのメッセージ(アニメ)<br>25分 (1989年)                | 中学生<br>以上        | この作品は就職差別に焦点を当てた作品です。未だに残っている部落差別の解消のために、毅然とした行動が必要なことを描いています。   |
| E-4<br>ふるさとに乾杯<br>54分 (1993年)                        | 一般               | 恋人にも告げずに故郷を離れ、板前修業に励んでいた清が二浪中の誠と再会した直後、何故か突然、店から姿を消してしまいます。不思議に思う経営者の中に、同和問題を乗り越え、いかに生きて行くべきか考えつつ、歩み行く三人の若者の姿をドラマチックに描いています。   |
| E-5<br>橋のない川<br>139分 (1993年)                         | 一般               | 明治・大正期の奈良の被差別部落を舞台に、厳しい部落差別への義憤とその中で培われていく人間のやさしさや尊厳を土台にして、全国水平社が創立されていく過程を描いています。   |
| E-6<br>花束<br>53分 (1993年)                             | 一般               | この映画は、自己中心的な生き方で、競争社会を生き抜こうとしている中年男性が、病気で倒れたことをきっかけに、自己の生き方を反省するとともに、周囲の人々の生き方から、ともに生きることの大切さに気づいていく様子を描いています。   |
| E-7<br>地域社会のなかの人権感覚～ともに生きる社会の実現をめざして～<br>24分 (1994年) | 一般               | このビデオは、地域社会でのくらしのなかで、差別につながるような言動がないかどうかを、具体的な事例を通して見つめ直し、人権尊重を基盤にした、明るい社会づくりの大切さを考えるために制作されました。   |
| E-8<br>ビッグタウン ふたりの朝<br>55分 (1994年)                   | 一般               | 都内のマンションに同居する岩山君子と瀬沼加代子は、看護師を目指して同じ看護学校に通っています。ある日、加代子の何気ない一言で、二人は衝突してしまいます。その姿を通して、差別の愚かさを描いています。   |
| E-9<br>芽吹き(アニメ)<br>41分 (1994年)                       | 中学生<br>以上        | 子どもの結婚相手が同和地区の人だということだけで、両親は、世間体にこだわり、人をないがしろにし、縁を切っても反対しようとしません。このアニメは、差別の厳しさ、虚しさを感じ「差別のない社会にするにはどのようにすればよいか」を考える作品です。  |

| 題名  | 対象               | 内容  |
|---|------------------|---|
| E-10<br>友情のキックオフ！<br>(アニメ)<br>27分 (1995年) | 小学校<br>高学年<br>以上 | 小学校のサッカーチームに凄い選手が入って来た。転校して来た誠だ。サッカーと友情をバックにイジメや差別を許さないことを強く訴えます。   |
| E-11<br>贈られた湯飲み茶碗<br>48分 (1995年)          | 一般               | このビデオは、心の底にひそむ差別意識に気づき、生き方を改めていくことが、差別のない、明るい社会を築いていく基盤になることを訴えようとするものです。   |
| E-12<br>家族の条件<br>83分 (1994年)              | 一般               | 不慮の事故で、幼くして両親を失った藤岡優子は、5歳の時から祖父保太郎の元で育てられ、平凡ながら幸せな日々を過ごしています。保太郎は68歳、優子が22歳になったある日、保太郎の前に優子が恋人の孝を連れてきました…。このビデオは、今なお残る部落差別の実態を描いています。           |
| E-13<br>菜の花<br>57分 (1995年)                | 一般               | この映画は、同和問題をテーマに、私たち人間の心の中に、知らず知らずのうちに根を下ろしている差別意識、エゴイズム、無知に対する甘えといった、ネガティブな部分に目を向け、一人ひとりの問題として、人が人を差別することの愚かしさ、不当さを考え、自分自身の心のあり方を見つめ直すためのものです。  |
| E-14<br>菜の花 (アニメ)<br>20分 (1996年)          | 一般               | このビデオは、「福岡県の被差別部落の語り伝え」をもとに、人間らしく生きる道を奪われてきた人びとの悲しみと怒りそして誇りを描きます。   |
| E-15<br>言葉と差別 (I)<br>18分 (1987年)          | 一般               | 時には、言葉はつぶと化して人の心を叩き、時には、鋭い刃物となって命までも奪います。「何気なく」発言したというが、ひとは、その心の底にひそむ差別の目に気づかない。このビデオは、言葉が持っている背景を探り、意味を問い直し、「差別を許さない」という心を育てる作品です。             |
| E-16<br>言葉と差別 (II)<br>23分 (1989年)         | 一般               | 言葉は生き物です。「使ってはいけない」と押し込めたり、「別の用語を当てればそれでよい」と“置き換え”に走るだけでは、「言葉」と「差別」のつながりをおさえきることはできません。このビデオは、この生き物のもつ歴史やその行動の意味を厳しく問いただして、人権との接点を明らかにしていく作品です。 |
| E-17<br>言葉と差別 (III)<br>23分 (1996年)        | 一般               | このビデオは、「差別語が使われてきた背景を知ることについて」「差別語を言い換えることの意味について」「差別意識が差別語を生むということについて」「差別語を使えない自分になるということについて」の4つの視点について、考えを深めるための作品です。                       |
| E-18<br>サンセットサンライズ<br>49分 (1997年)         | 一般               | このビデオは、自らの人権意識を見つめ直し、自立した生き方を身につけるとともに、積極的に周囲の人々に働きかけていく生き方が、差別のない明るい社会の創造につながることを訴えようとするものです。  |
| E-19<br>こころの架け橋<br>50分 (1999年)            | 一般               | 大自然を背景に、森を守り、森とともに生きる人々のたくましさを描きながら、老練な山の作業員高木幹彦と、森林組合で働く都会育ちの青年鈴木伸幸との交流を中心に、彼らを取り巻く家族や周囲の人々の姿を描いています。  |

| 題名   | 対象               | 内容   |
|--|------------------|--|
| E-20<br>メゾン風の丘<br>53分 (1998年)                  | 一般               | 大地を撫でるさわやかな薫風。陽光に愛しまれる人びとの生活。このビデオは、みんなが幸せに暮らすために、私たちはどう生きるべきなのかを問いかける作品です。  |
| E-21<br>旅立ちの夏<br>49分 (1999年)                   | 一般               | 就職差別を中心テーマとして、「全国高等学校統一用紙」や「香川県部落差別事象の発生の防止に関する条例」の趣旨の普及を図るとともに、「人権の世紀」とも言うべき21世紀に向け、すべての人の人権尊重の意識を高め、あらゆる差別の解消と、人権という普遍的文化の構築を目指して制作されています。   |
| E-22<br>だけん・なん<br>58分 (1998年)                  | 小学校<br>高学年<br>以上 | 「だけん・なん」とは熊本地方の方言で「だから、なんだ」という意味です。この作品では、「だけん・なん」が、不合理な言動に断固として反発する言葉として使われます。差別や偏見の不合理さを訴え、併せて次の世代の子どもたちにいじめや差別に立ち向かう勇気を伝えること(エンパワメント)の大切さが描かれています。  |
| E-23<br>そして出発<br>54分 (1999年)                   | 一般               | このビデオは、差別による心の傷を抱えた二組の夫婦の交流と葛藤を中心に、人間としての誇りと偏見という垣根を取り払うことの大切さを描き、今日の同和問題をはじめとする様々な人権問題について考える手がかりを提供しようと制作されたものです。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">文</span>                                      |
| E-24<br>いのち輝く灯<br>(アニメ)<br>48分 (2000年)         | 中学生<br>以上        | このビデオでは、人生の途中で障害者となった奈津子とその恋人・雅人(母親が同和地区出身)、そして盲目の高齢者・昭吉との関わりや家族を含めた周りの人々との関係を通して、「人権」とは何かを問いかけます。何故、人が人の人権を無視し差別するのか、また人が生きていくうえで大切な「同胞の精神」とは何なのかを見る人に投げかけています。   |
| E-25<br>シャッターチャンス<br>(アニメ)<br>25分 (1999年)      | 中学生<br>以上        | 物語は、サラリーマンの家庭に育った高校3年生が主人公です。彼は自分の進路に悩んでいましたが、下町で伝統工芸の職人をしている叔父や、タイ人の叔母、同和地区出身の写真家の生き方等に接し、自分の手で道を開いていこうと思うようになりました。また、自分の価値観が正しいとかたくなに信じていた父親が、息子の進路問題に直面して、様々な生き方があることに気づく姿を描きます。                                    |
| E-26<br>それぞれの音色<br>～太鼓の町に生きる～<br>38分 (1998年)   | 一般               | 大阪の浪速地区。そこに生きる太鼓職人さんの技術と想い。差別の現実と向き合い、太鼓集団としての活動を通じて、自分の「人間解放」をめざすとともに、まわりの人びとの解放のきっかけとなることを願う青年たちの姿を追っています。   |
| E-27<br>風かよう道<br>35分 (2001年)                   | 一般               | この作品は、古い因習にとらわれている主婦とその家族を通して、六曜、占い、ケガレなどが差別意識を形成する土壌となっていることを提起しながら、今日的な問題であるコンピューターを悪用した差別事件も絡めて展開していきます。  |
| E-28<br>セピア色の風景<br>55分 (2000年)                 | 一般               | 交通事故で意識不明となった父の生い立ちを息子がたどって行くうちに父が部落出身者であり、6歳頃に別れた父の妹が龍神温泉で働いていることを知ります。そんな中で様々な差別問題に触れます。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">文</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">教</span> |
| E-29<br>渋染一揆<br>(アニメ)<br>(字幕入り)<br>15分 (2001年) | 中学生<br>以上        | 同和問題をはじめとする様々な人権問題の解決に向けた教育・啓発に役立てることを目的として、岡山県の歴史的事実である渋染一揆をアニメーション化したものです。   |
| E-30<br>素顔の心で<br>(字幕入り)<br>53分 (2000年)         | 一般               | このドラマでは、差別する側に立つ人と、差別をなくす側に立つ人、あるいは差別を見抜けないでいる人など、さまざまな生き方をした人が登場します。人が幸せになるとはどういうことなのか、お互いが愛し合い、支え合うことがどうして大切なのかを描いています。  |

| 題名  | 対象 | 内容   |
|---|----|--|
| E-31<br>被差別民が担った文化と芸能～日本文化の地下伏流～<br>43分 (2000年)       | 一般 | 全国各地の数百にのぼる被差別部落を訪れ、伝承されてきた芸能と産業技術を研究してきた沖浦和光さん。この作品では、沖浦さんの研究成果をもとに、大阪、奈良、浅草に、被差別民衆が担ってきた芸能の歴史をたどります。   |
| E-32<br>えせ同和行為排除のために<br>(字幕入り)<br>30分 (2001年)         | 一般 | ある日、会社に突然送られてきた同和問題に関する書籍。購入を強要され、思い悩む主任の神山。このビデオは、法務局で人権擁護委員に相談し、えせ同和行為への対応を身につけ、毅然とした態度で臨む神山の姿を描いた作品です。  |
| E-33<br>夢の約束<br>53分 (2002年)                           | 一般 | 仕事に就くことができないで厳しい現実の前に悩んでいる青年は…同和地区出身であるために悩む青年と、その周囲の人々が太鼓を通して次第に自分をみつめるようになると共に、父の時代に果たせなかった太鼓の演奏会という夢の約束を果たしていく感動のドラマです。<br>[文][教]   |
| E-34<br>ツインズ17<br>55分 (2004年)                         | 一般 | 高校2年生の真希と友希は双子の姉妹。姉の真希は剣道部員で、何事に対しても積極的で、同じ剣道部員の晋介とはお互い心を寄せ合っている。一方妹の真希は姉とは反対に、郷土の生んだ文人や哲学者に関心を持ち、真実の生きる道を求めています。父の死後、ムラ（同和地区）を離れて醤油工場で働く母と娘2人は、今なお解消されていない部落問題に次々と遭遇します。そして、30年前の北野川の洪水が、双子の姉妹、父母そして画家の宇野とを結びつける絆が、いま明らかになっていきます・・・！<br>[文] |
| E-35<br>いま、部落を語る若者たち<br>27分 (2004年)                   | 一般 | 今までの同和教育では、「部落」のマイナス面を強調することも多かったと言えます。しかし「部落」という属性を、性別や国籍などの属性と同じように普通に受け止め、自然に生きる若者が現れています。もちろん「差別」の現実は今なお厳然として存在しています。このビデオは、マイナスイメージを克服し、等身大のアイデンティティを模索し始めた若者たちの姿を追うなかで部落差別に向き合う手がかりを探しています。  |
| E-36<br>一人ひとりの心は今！<br>34分 (2001年)                     | 一般 | エセ同和行為に対してひるむことなく、一貫してき然とした態度で拒否し、また、障害者問題を社内で行き詰る若い社員達の姿を描く感動の人権問題啓発ドラマです。<br>[文]   |
| E-37<br>大地の母きくゑ<br>32分 (2005年)                        | 一般 | 差別を乗り越え、人々の温かい心に支えられながら生き抜いてきたきくゑ。生活苦から考え出されたうどん作りが、思わぬところで地域社会で役立つこととなり、80歳を過ぎた今でも、きくゑの活動はとどまることを知りません。大正に生まれ、差別と闘い、昭和・平成と生きてきた一人の女性の心温まるドキュメンタリードラマです。<br>[文]  |
| E-38<br>今でも部落差別はあるのですか？～マイナスイメージの刷り込み～<br>38分 (2005年) | 一般 | 「今はもう部落差別はなくなったのでしょうか？」という素朴な疑問に答えようと汗を流したことありませんか？差別には見えるもの（実体的差別）と見えないもの（心理的差別）とがあります。同和地区の外で再生産される偏見・差別と忌避する気持ちという今日的な問題について、ドラマで提起し、解決の筋道を考え合うビデオです。   |
| E-39<br>おはようの音が響く街に！<br>35分 (2001年)                   | 一般 | 差別を受けながらも、希望を見だし、それを乗り越えて力強く生きる三世代の家族。一方、差別をしてはいけないことと知りながら、世間体にこだわる両親の心正していく高校生。その二つの家族の葛藤から学ぶ、人権尊重の社会をめざす感動のドラマです。<br>[文][教]   |

| 題名   | 対象    | 内容  |
|--|-------|---|
| E-40<br>私の好きなまち<br>(字幕入り)<br>35分 (2006年)                           | 一般    | この作品は、誰もが体験しうる身近な問題を取り上げながら、「それぞれの違い認め合い、共に生きる」「相手を思いやる」「夢をもって生きる」ことの大切さを訴えかけています。  |
| E-41<br>メール<br>(字幕入り)<br>54分 (2001年)                               | 高校生以上 | ホームページ上での、悪質な差別的書き込みで被害を受ける人が急増しています。便利で有益であるはずのインターネットが、イタズラや人権侵害に使われることがあってはなりません。<br>この作品は、身に覚えのない中傷や同和地区出身であるなどと、ネット上の掲示板に書き込まれた女子高校生の、精神的な苦痛を題材にしています。いわれのない非難と、一方では親友への自責の念に落ち込む主人公が、同級生やプラスバンドの仲間の応援、両親や周囲の大人たちの支えで、自ら立ち直っていく姿を描いています。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">教</span> |
| E-42<br>差別意識の解消に向けて<br>〈第1巻〉人権のまちづくり<br>DVDのみ<br>29分 (2007年)       | 一般    | 家を購入したり、マンションを借りたりするなど住宅を選ぶ際に、同和地区やそこを含む校区にある物件を避ける人が、今なお多くいるのはなぜでしょうか。今日の部落差別は、土地を媒介にした差別だと言われ、「同和地区の土地に対する忌避意識」が、その根底にあります。<br>いま、地区内外の人たちがより良い暮らしをするために生活現場で協働して差別意識の解消に向けて「人権のまちづくり」に取り組んでいます。大阪府内の2つの人権のまちづくりの現場を訪ね、まちづくりをとおして差別や偏見の解消に取り組む人々の思いを伝えます。   |
| E-43<br>差別意識の解消に向けて<br>〈第2巻〉宅地建物取引における土地差別<br>DVDのみ<br>22分 (2007年) | 一般    | 大阪府内で実際にあった宅地建物取引での差別事象をドラマで再現し、実態のない噂や風説に基づいて温存されてきた同和地区に対する忌避意識が、自分の利害に関係する宅地建物取引に直面した時、どのように具体的な差別行為となって現れるかを考えてみます。また、宅地建物取引業のみなさんへのインタビューをとおして、生の声を紹介しています。<br>実際の宅地建物取引において人権問題に直面したとき、どのように対処すべきか、そして、住宅という人々の生活基盤を提供する重要な職務に携わるみなさんの人権意識の高揚がいかに大切かを、映像を通してともに考えます。                                  |
| E-44<br>差別意識の解消に向けて<br>〈第3巻〉土地差別問題を考える<br>DVDのみ<br>24分 (2007年)     | 一般    | 大阪府内で実際にあった宅地建物取引での差別事象をドラマで再現し、実態のない噂や風説に基づいて温存されてきた同和地区に対する忌避意識が、自分の利害に関係する宅地建物取引に直面した時、どのように具体的な差別行為となって現れるかを考えます。<br>そして、住民や業者から「購入予定の不動産の所在地が同和地区かどうか」、「購入予定の住宅の校区に同和地区が含まれるかどうか」、「建売住宅の計画地が同和地区の隣接地かどうか」の問い合わせを受けた時の対応方法の一例をケーススタディで紹介し、行政職員として土地差別にかかわる人権問題に直面した時、どのように対応すべきかを、自分自身の問題として考えます。       |
| E-45<br>部落の歴史<br>(中世～江戸時代)<br>DVDのみ<br>27分 (2007年)                 | 一般    | 被差別部落出身の人々への差別意識はいついどこからきたのでしょうか。中世から江戸時代の部落の歴史とその歴史的背景を学ぶための教材です。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">教</span>  |
| E-46<br>部落の歴史<br>(明治～現代)<br>DVDのみ<br>27分 (2007年)                   | 一般    | 1871年に明治政府が「賤民廃止令」いわゆる「解放令」を出し、制度上の被差別身分が廃止された以降、現代まで続いている被差別部落出身の人々への差別について学ぶための教材です。  |